

同窓会報

No.76

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

四日市市茂福65
TEL <059> 365-3631

印刷

㈱東海フォトデザインシステム



親子三代

同窓会副会長 藤原和彦
(四高54年度卒)

平成19年の春、長男の入学式のため久しぶりに四日市高校の門をくぐりました。そのあと3年間、PTAの関係で幾度となく母校を訪れる機会がありましたが、息子の卒業と同時にそれも終わりました。それからは母校を訪ねることもなくなり、今度はおつばら校庭の横を素通りして同窓会館へ向うことになりました。一昨年亡くなった父は、私・長男と親子3代に渡って四日市高校の同窓であることを大変喜び、誇らしく思っておりました。

私の高校生時代というと部活動のために学校へ通っていたよ
うなもので、朝から教室へ行く前に部室へ行き、放課後も部室から校庭を横断して駅へ向かっていました。中学時代に吹奏楽部でトランペットを吹いていた私は、中学の同級生数人と高校入学式前から練習に入れてもらい、4月の新入生歓迎会ではすでに先輩方に交じってステージで歓迎演奏をしました。教室よりも先に部室へ通っていたという事です。コンクールや四高祭、歳末助け合い音楽会、アンサンブルコンテストなどに向けて仲間と練習に励み、ステージで演奏したことは今でもよく覚えていています。

学年としては幹事会に毎年何度かは集まり、4年に一度は同級会を行っています。一昨年の8月には初の試みとして『一群同級会』と銘打ち、四日市南高校と同日に同窓会を開催しました。2次会では、中学校別のテーブルをセッティングして大いに盛り上がりました。
長男は一昨年に大学院を修了し、今は大阪で働いています。高校時代はとも良い友人に恵まれたようです。私同様、息の永いお付き合いが続けばと思っております。



ご挨拶

学校長 松岡泰之

同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申しあげます。また、日頃から本校の教育活動にご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

私は、平成30年4月に和田校長の後任として着任いたしました。本校には、10年ぶりに再び勤務させていただくことになりました。勉学、部活動、学校行事等、すべてのことに全力で取り組む生徒たちとともに、四高のよき伝統をさらに進化させてまいれる所存です。

昨年度の進路状況は、国公立大学に231名、うち国立難関10大学には83名、医学部医学科には13名が合格しました。年々、高い志を持って難関大学への進学を希望する生徒が増加しています。

部活動では、男子硬式テニス部が、57年ぶりのインターハイ出場、SSH科学部・生物部が、「科学の甲子園」全国大会出場のほか、全国大会には、水泳、将棋、美術、放送、文芸部が、東海・近畿大会には陸上、テニス、山岳、バトン、卓球、水泳、将棋部が出場しました。これらに出場した選手には、同窓会から温かい励ましのお言葉とともに、奨励金を頂戴いたしました。改めて感謝を申し上げます。
さて、本校は、本年度から5年間、文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の研究指定を受けました。このSSH事業では、探究活動を核とするプログラムを通して、国際的に活躍できる科学技術系人材の育成を目指しています。SSHをはじめ、あらゆる教育活動の中で、主体的・多面的な学びを通して、これからの社会を生き抜いていくために必要な力を育みたいと考えています。

最後に、四高同窓会のみならずのご発展を祈念申しあげますとともに、今後とも母校へのご支援ご協力をお願い申しあげ、ご挨拶いたします。



それは昨年のある日のこと、同窓会館の電話を取る時、福島市にある古閑裕而記念館の学芸員の方から問い合わせであった。夏の甲子園100回を記念して、特別展を催す予定だが、古閑裕而が作曲した校歌を持つ歴代優勝校の当時の写真を展示する予定とのこと。氏は多くの校歌を作曲しているが、夏の高校野球全国大会で優勝しているのはわずかに二校のみで、四日市高校がそれに該当するそうである。「地球をめぐる」は弘田龍太郎作曲ではなかったかと思っていると、本校の場合は応援歌であるという。▼題名を聞いて、我が不明を恥じるとともに懐かしい思いが甦ってきた。そう、言うまでもなく「希望の門」である。丹羽文雄・古閑裕而という往年の名士のコンビによる作品だ。写真のほうは同窓会館で展示しているものをコピーして送って差し上げた。▼これで一件落着かと思っていると、後日、お礼の電話があり、そのついでに、作られた年を尋ねられた。古閑裕而の作品は生涯五〇〇〇曲に及び、作曲年が不明のものもあるという。▼気安く引き受けたものの、これが苦難の始まりであった。「百年史」、「七十年史」、「四高学生新聞」等々、いろいろの史料を調べてみたが、どこにも記載がない。こうなったら、この拙文で会員諸氏に問いかけるしかないと思いついてみた。▼ところが、原稿締め切り間際、最後の悪あがきでもう一度「百年史」を眺めていると、何という僥倖であろうか、後ろの回想録に書いてあるではないか。母校の旧師、伊澤宏先生の御高文に記述してあったのだ。いわく、一九五二年春、赴任したばかりの先生が全校生徒に披露したそうである。(青山)

2019年度 〈母校創立120周年記念総会〉 ご案内

2019年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

○日時

2019年6月1日(土)
13時30分受付/14時00分開会

○場所

四日市市総合会館8階 視聴覚室

○総会 議事・議案審議

○記念講演

〈講師〉
小説家

伊吹有喜氏 (四高61年度卒)

〈演題〉

「犬がいた季節
—四高の花と犬をめぐる
物語について—」

※講演につきましては一般に公開しております。お知り合いでご興味のある方にはご案内下さい。

○抽せん会 記念撮影

○記念祝賀会

総会行事終了後、総合会館西隣り、四日市商工会議所1階ホールにて祝賀会を開催します(無料)。ぜひ、ご参加を…。

《お問い合わせは同窓会館まで》

TEL・FAX 059-365-3631
Eメール sikoukai@m2.cty-net.ne.jp
http://www.pcs.ne.jp/~shiko/



平成30年度 四日市高校同窓会総会報告

記念講演 石澤龍彦氏（四高56年度卒）

「最近の交通・観光行政の取組について」

2018年6月2日
四日市商工会議所

6月2日（土）、四日市商工会議所に於いて平成30年度総会が開催されました。出席は70名、西協副会長の司会の下、まず伊藤会長より出席者に日頃の同窓会活動への協力のお礼と今後のさらなる協力の要請が述べられました。次いで松岡校長からは母校の成果と実績の報告と共に、切り拓く意思を持つ生徒の育成に尽力なさる旨をお話しいただきました。

その後上野常任理事を議長に議事審議が進行、また青山副会長から母校創立120周年に向けての同窓会記念行事の提案があり、会報で周知を図ることが決議されました。

続いて四高56年度卒石澤龍彦氏による記念講演を拝聴、記念撮影・ティーパーティーへと進行しました。



受付風景



総会参加のみなさん



会長あいさつ

議事

- 第1号議案 平成29年度事業報告
 - 第2号議案 平成29年度収支報告
 - 第3号議案 平成30年度事業計画
 - 第4号議案 平成30年度予算
- 以上に於いて審議、承認されました。

記念講演

同級生の森川友博氏のご紹介により登壇された石澤氏は、国交省中部運輸局長を務められ、携わっておみえの公共交通・物流・観光事業について「最近の交通・観光行政の取組について」と銘打つての講演を展開してくださいました。

観光関係の取組として推進している昇龍道プロジェクトの概要や今後の課題、地方公共交通の維持確保に向けた取組として地域力を生み出すネットワークの強化、運輸業の人材確保に向けた取組として今後の展開計画、そして物流関係の取組として総合効率化計画等を、見やすい資料をご準備の上お話しくださいました。明日の日本を支えるべく幅広い視野の下、それぞれの分野が連携していくことが地方創生につながるのだと、改めて認識させていただくことができましたと思います。



講師 石澤氏



四高昭和50年度以降



富中・四女・四高昭和49年度以前

一般財団法人四高会 平成29年度 収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

科目		摘要	決算額	予算額
I. 収入の部				
① 事業収入	会館使用料		40,600	50,000
② 受取寄付金収入	同窓会より		2,500,000	2,500,000
③ 雑収入	受取利息等		6,866	803
合計			2,547,466	2,550,803
II. 支出の部				
① 事業費・管理費支出			1,297,074	1,559,000
会議費支出	会議等		44,432	100,000
講演開催費支出	講演会		109,364	100,000
地元協力費支出	十四川の桜管理		50,000	50,000
消耗品費支出	コピー機、事務諸経費		149,769	200,000
光熱水料費支出	電気、水道、ガス		388,627	420,000
保険料支出	火災保険料		23,510	25,000
租税公課支出	県税、市税、固定資産税、源泉税等		425,601	450,000
清掃費支出	環境整備等		78,750	100,000
支払負担金支出	商工会議所		14,000	14,000
雑費支出	会館ポスト、ペンキ代等		13,021	100,000
② 投資活動支出			1,000,000	1,000,000
修繕引当資産取得支出	会館修繕目的		1,000,000	1,000,000
② 予備費支出			0	10,000
合計			2,297,074	2,569,000
III. 当年度収支差額			250,392	△18,197
IV. 前年度繰越収支差額			425,197	425,197
V. 次年度繰越収支差額			675,589	407,000

百五銀行富田駅前支店普通預金	単位: 円
次年度繰越収支差額	675,589

修繕引当資産(百五銀行富田駅前支店定期預金)	単位: 円
前年度末	1,700,000
今年度積立金	1,000,000
利子	145
今年度末	2,700,145

四日市高校同窓会 平成29年度 収支決算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

項目		細目	摘要	決算額	予算額
(収入の部)					
① 同窓会収入				8,238,600	8,144,000
	入会金	全日制 1,800円×1,062人		1,911,600	1,944,000
	同窓会費	終身(20000) 310	6,200,000		
		10年(10000) 0			
		5年(5000) 1	5,000		
		3年(3000) 1	3,000		
		1年(1000) 119	119,000		
		寄附金、利子		6,327,000	6,200,000
② 雑収益				223,092	7,360
③ 前期繰越金				548,640	548,640
合計				9,010,332	8,700,000

項目		細目	摘要	決算額	予算額
(支出の部)					
① 運営費				1,387,343	1,550,000
	給通	与務	給料、手当	1,174,000	1,200,000
			印刷、事務用品等	85,059	200,000
			電話、郵便、インターネット関連費など	128,284	150,000
② 会議費				219,848	380,000
	総理事常任理事会	会	会場費、懇親会費、案内状	167,073	250,000
		会	会場費、会議費、案内状	47,975	100,000
		会	会議費	4,800	30,000
③ 事業費				1,927,370	2,000,000
	会報	報	会報印刷及び発送費	946,506	1,000,000
	クラブ活動助成金	報	励励金・語学研修補助など	980,864	1,000,000
④ 四高会拠出金				2,500,000	2,500,000
⑤ 積立金				2,200,000	2,200,000
⑥ 予備費				0	70,000
合計				8,234,561	8,700,000

百五銀行富田駅前支店普通預金	単位: 円
平成29年度収入	9,010,332
平成29年度支出	8,234,561
次年度繰越金	775,771
平成29年度卒業生 同窓会費預り金	6,820,000
今年度末	7,595,771

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金)	単位: 円
前年度末	51,404,591
今年度積立金	2,200,000
利子	4,102
今年度末	53,608,693

四高同窓会

第10回銀城親睦ゴルフ大会 開催される

第10回四高銀城親睦ゴルフ大会は、去る11月8日(木)に65名(内女性4名)の参加により四日市カンツリークラブを計画してまいりますのでお誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

優勝者は男子の部が昭和46年度卒の貝沼 悟さん(89-18-71)、女子の部が昭和47年度卒の今谷 香さん(99-20-4-78.6)でした。なお、第11回大



男女優勝者と会長



懇親会風景

甲子園に八稜星はためく

2018年8月5日、第100回全国高校野球記念大会開会式にて歴代優勝校旗の行進があり、紺地に黄色の八稜星を配した母校校旗が37番目に登場、甲子園の風に乗って翻りました。



かけがえのない子どもたちのために 見逃さないで!! 小さなサインを

私たち四日市高校同窓会は、三重県が取り組む「いじめ防止応援サポーター」に登録しています。同窓会員の皆さんも、子どもたちが発する小さなサインを見逃さず、多くの大人の目で子どもたちを見守ってください。



役員

Table with columns for roles (会長, 副会長, 顧問, 書記, 監査) and names of members with their school years.

平成30年度会費納入者

- List of members who paid dues for the fiscal year 2018, including names and school years.

会費納入のお願い (Notice regarding dues payment, including amounts for 1, 3, and 5 years, and contact information for the alumni association.)



四日市高校の思い出

三輪 芳子

（四女38回5年生卒）

昭和11年4月入学、満州事変支那事変と続き世の中も落ちつかない日々が過ぎました。原校長先生の朝礼の訓話も非常時に対するお話が多くなりました。制服も一新して、ジャンパースカートに白のブラウス。冬は以前通りのコートでした。待望の修学旅行も1ヶ月遅れの6月4年生の時に決まり皆が大喜びしました。例年通り長野、日光、東京、江ノ島、熱海と6泊7日の大旅行でした。箱根の大涌谷をワラジにはきかえて山

越えし芦ノ湖迄歩いたのもなつかしい思い出です。昭和15年になり、体操の時間週1時間薙刀の時間になり、講堂で素足になり、かけ声も勇ましく薙刀をふりまわしたものでした。何となく戦時中色もこくなり昭和15年の夏、伊勢の海が真っ黒になる位軍艦が集結しました。戦艦陸奥を全校生徒がダルマ舟に乗って見学に行きました。軍艦のすみずみ迄見学し又ダルマ舟で帰りました。次の日曜日上陸した海軍さんに名刺を

もらって、花束持ってそれぞれランチに乗り訪問しました。皆喜んで案内して頂き帰りました。それから間もなく第二次世界大戦が起こり、多くの艦が撃沈したとのニュースを聞き皆が茫然としました。私達の高女は沖の島、四日市の中、心地にあり、20年6月の大空襲で全焼しました。私達には忘れる事はありません。男女共学になり、富中に合併になり、名前も四日市高校となりました。私達古い者には馴染みも薄くなりましたが、身内は明治の1期生から平成の世まで延々とお世話になって居りますので、益々のご発展を心より願って止みません。



夢の甲子園

川本 牧子

（四高H7年度卒）

「三重県代表。初出場。白山高校！」というアナウンスの声。平成30年8月。第100回全国高等学校野球選手権記念大会。酷暑の中、白山高校は夢の甲子園初出場を果たしました。山合いの白山町は甲子園出場のニュースに大いに盛り上がり、多くの声援を頂きました。私が部長を務め、6年目の夏でした。

私は平成4年に四高へ入学し、夢だった硬式野球部のマネージャーの活動を顧問の先生に聞きに行くと、当時女子マネは募集していないとの返事。本当に残念でした。中学の頃、四工が甲子園初出場し応援に行き、いつか高校野球に携わり甲子園を目指したいと思っていました。



が出来、本当に感動でした。部員や、応援して下さった全ての方に感謝。甲子園の力、高校野球の魅力が改めて感じ、今後も頑張っていきたいと思っています。

往 来



世界記録への挑戦

片岡 正宏

（四高H12年度卒）

2018年12月31日、第69回NHK紅白歌合戦にて一つの世界記録が誕生しました。

その記録は「けん玉の大皿に玉を乗せた人の最も長い列」、ギネスワールドレコードが認定を行っている、いわゆるギネス世界記録です。

私は現在、公益社団法人日本けん玉協会の三重県支部長を務めています。前述のギネス世界記録に、全国各地から集まったけん玉名人たちと共に挑戦を行うことができました。

けん玉における数々の技の中で、最も基本的な技といえるのが一番大きなお皿に玉を乗せる「大皿」という技です。けん玉

を初めて手に取った方が、最初に挑戦する技と言っていていいでしょう。

「そんな基本的な技なら、経験者を集めればすぐに記録達成できるんじゃないんですか？」当然、そんな意見もあります。

しかし、いくら簡単な技とは言え、成功率90%の技を10人連続で成功させる確率は、0.9の10乗（0.3486）、約35%です。ましてや、今回の世界記録は124人連続です。各自の技の成功率が99%だとしても、0.99の124乗（0.2875）約29%。全体で見れば成功の可能性は3割もないのです。さらにその挑戦を行う舞台



ハムレットの哲学

伊東 謙太郎

（四高32年度卒）

の伊沢先生が作曲して下さった。信州大学では化合物半導体の薄膜を使用して安価に製造可能な無公害電力源として期待される太陽電池を研究した。従来の素子はその成分に含まれる金属元素が希少であるため、全世界の総消費電力のかなりの部分を賄うことは不可能である。この問題を解決する方法はないものかと思索した。

脳裏に浮かんだのは、デンマークの王子ハムレットが友人の

哲学者に語った台詞である。「ホレーシオよ、この天空と地球には君の哲学が夢想するよりももっと多くのものが実在するのだ。そつだ！地球の表層に豊富に存在する無害な元素を用いることができるれば解決が行く。我々は新しい四元化合物がこの目的のために有用であることを発見し、1988年に公表した。その後、この化合物に世界中の研究者の関心が集まり、昨年そのグループは10%を超えるエネルギー変換効率の太陽電池を開発した。今後においても一層の技術展開が図れるよう微力ではあるがお役に立つことができればと考えている。

物

人

は、日本人なら誰もが知る大晦日の紅白歌合戦のステージ。生放送での本番一発勝負。まぶしい照明、見たことのない撮影機材、聞き覚えのある芸能人の声、そして目の前には3,000人の観客。すべてがいつもとは違う光景でした。

ステージに立ったときには、緊張で足が震えました。曲が始まって自分の番を待つ間は手が震えていました。自分の番が回ってきたときには「いつも通り」を心がけて技を行いました。

最後の124人目が成功した瞬間、NHKホールに割れんばかりの歓声と拍手が沸き起こり、記録を更新した達成感に心が震えました。

けん玉を始めた時には、こんなにも大きな舞台でギネス世界記録に挑戦するなんて想像もありませんでしたが、自分の人生の可能性を広げてくれるけん玉をこれからもずっと続けていきたい

と思います。この会報を読まれた方も、ぜひ「大皿」から挑戦してみたい。もしかしたら、それが世界記録への最初の一步になるかもしれません。



シコウの先生

樋口太地

(四高H26年度卒)

私は昨年、母校である四日市高校で教育実習生として3週間お世話になりました。卒業してから4年が経ちましたが、校舎やそこで学ぶ生徒たちの様子は驚くほど変わっておらず、自分が四高生として学んでいた頃を思い出し、とても懐かしい気持ちになりました。一方で、私の立場は「生徒」から「先生」へと大きく変わり、実習生の視点から多くのことを学ばせていただきました。

まず印象に残っているのは、先生がいかにも多くのことを考えた上で授業に臨んでいるかという点です。教科書に載っていないことも含めて、授業で取り扱う内容を厳選し、それらをどのように生徒たちに伝えることが最善であるかを試行錯誤し続けた3週間でした。また、生徒や他の先生との信頼関係を築くことの大切さや難しさも学びました。生徒一人一人の性格や考え方を理解しようと努め、

それらを学校生活の中でより良い方向に活かそうとしている四高の先生方の思いを知り、自分の中の教師像が大きく変わりました。このような学びは、生徒ではなく実習生という立場であるからこそ得られたものです。最後に、実習最終日にある先生からいただいた言葉を紹介します。「100点満点の授業をしたことはないし、そんなものは存在しない」と仰いました。生徒一人一人と向き合い、常に考え、内省しながら、何歳になってもより良い授業のために努力することこそが、至高の先生なのだと思います。

時を超えて

辻 和則

(四高52年度卒)

四日市高校、昭和50年入学時の事。入学式が終わり、クラスに入つての試験、クラスメイトの名前を全員が覚えるまでとスタートした自己紹介。いち早く打ち解ける為の、担任の院田先生のご指導であったと思います。「君たちならできる!」という励まし。事あるごとに、この言葉を思い出して頑張ろうと力わいてきます。

高校時代は柔道部に所属し、西尾先生、中川先生、先輩方にご指導頂き、仲間と武道場で汗を流し、進栄軒(リスドール)でもぐもぐタイムが日課でした。卒業後は各自各地へと離れた。縁あって、平成27年から四日市高校PTAの本部役員に参加させて頂きました。40年ぶりの母校は懐かしさの限りでした。当時と変わらないところ、変わったところと探して歩き、遠ざかっていった記憶がよみがえってきました。

生徒の皆さんのレベルは高く、文武両道に優れ、グローバルリーダーとなる逸材ぞろいで、伝統校らしい活躍を誇らしく思いました。学校への訪問機会も増え、文化祭、京都研修、PTA東海大会、全国大会への参加と多くの方々と話す機会を頂き、貴重な経験ができました。同窓会は年度を越えた先輩後輩の皆さんとの出会いの場、多くの事を学べる場所。3年間の任期を終えて、40年ぶり2度目の卒業をさせて頂きました。感謝!



バラ祭り花フェスタ

村山 紗弓子

(四高通信制卒)

通信制同窓会のバス旅行では陶磁美術館内レストランで、松花堂弁当の昼食美味しく食しました。花フェスタ記念公園で満開のバラの花々を見ることができ

おります。毎年思うことですが、このバス旅行では懐かしい方々のお顔が確認でき、元気な様子が今後の私の生活にも大いなる励みとなっています。また、来年も楽しい旅行が企画され、元気な皆さん方にお会いできることを楽しみにしています。



リレー随想

〈第22回〉

日永うちわ四代目の私

稲垣嘉英（四高50年度卒）



日本人は四を死に繋がるとして忌み嫌う。でも私には四が付きまとう。四日市の四。四高出身の四。住所番地の四。生年月日の四。子どもの数の四。商売四代目の四。数えればキリがない。でも今まで幸せに生きてこれたのだから四は私のラッキーナンバー！そう思う事している。

さて4年に1度の同窓会。私はなぜか有名人である。挨拶はTVで観たよ、新聞で見たよ、である。そう、日永うちわだ。私は日永うちわ最後の一軒、稲藤四代目代表。うちが止めたら400年の歴史の灯が消えてしまう。止めるに止められない瀬戸際。父の遺言も商売が続く限り日永うちわの灯を絶やすな！だった。私は父が元気な間は日永うちわにあまり携わらなかった。任せきりだった。でも他界すると400年の歴史の重圧がドンとのかかる。止める選択肢は許されない。続けるには商売だから儲けなければならぬ。ご存じの通り、うちわは夏に涼を得る道具。扇風機やクーラーが在る現代では暑から売れる道具ではない。ひと工夫が必要だ。まず考えたのが消臭うちわ。裏面に旭化成の消臭シート、セミア



を貼って臭いを吸収。1年中使えるうちわが完成した。するとこれが行政の方の目にふれ、補助金が付く。消臭の逆、今度は良い匂いを出す香るうちわのアイデアだった。

日永うちわの持ち手の上部には籠状の空間が存在する。そこに香りを出す何かを仕込めれば香るうちわが出来るぞと。そこからは試行錯誤の連続。最初は脱脂綿、そこにアロマオイルを垂らす。でもそれはあまりカッコ良い物ではなく何より世に在る日永うちわにピンセットで脱脂綿を詰め込めば同じ物が出来てしまい新しく売れる日永うちわではない。アイデアだけの提供に終わるからボツ。次はスポンジだった。1センチ角に切ったスポンジを骨を編む際に入れ込む。ところがアロマオイルが下に垂れるではないか。スポンジは体積がしぼんで広がる時にだけ吸水するのだった。これも失敗。補助金をもらって世に出さない事は許されない。重圧がのしかかる。最後に思いついたのがアロマで使う香り玉だ。ケイ酸カルシウムで出来た素材で体積だけで中身はカスカス。要するに容積分ぎゅっとオイルをとじ込めてくれる優れモノ。これだと思った。

そして完成した翌年、ある出来事が起こる。福島原発の事故だ。電力不足で電気も電池も使わないうちわにマスコミが注目。脚光を浴びる。正に復活の狼煙だった。全てが手作業ゆえ生産量には限界があり、売上は職人の数で決まるという歯がゆさはあるが、とにかく作っただけ売れた。というより待ちが余りに多いのでネット閉鎖にまで追い込まれるという嬉しい悲鳴。この流れは今でも続いている。

ただ売上は職人の数で決まるという状況は変わらず、その確保が難しい今、商売的には今ひとつ、というのも変わっていません。

以上、近況報告でした。

創立120周年記念行事について

四日市高等学校 教頭 丹羽 徹

四日市高等学校が平成31年度に創立120周年を迎えるにあたり、平成29年度より120周年記念行事を行うための準備会として「創立120周年記念事業実行委員会」が立ち上がりました。昨年度中には7月と11月に実行委員会が開催され、実行委員会の組織体制を決定し、また、「三重県立四日市高等学校創立百周年記念事業 資金管理委員会規約」（平成21年3月31日改正施行）の内容を確認してその規約に則り、同窓会・PTA・学

委員会を四日市高校において開催しました。会議において話された内容として、①記念式典を平成31年10月12日（土）の13時00分に四日市市文化会館において開催する。②式典後の記念講演を同窓生である藤田正勝京都大学特定教授（昭和43年卒）に口頭にて依頼済みである。③120周年記念誌の冒頭写真の中に航空写真を掲載し、その撮影は新緑のころ（5〜6月ごろ）とする。等の事項を決定確認しました。来年度に入ると記念式典まで半年となり、校内実行委員会を中心にいよいよ本格的に準備を進めて行くこととなります。今後も同窓会のご協力をよろしくお願いいたします。

同窓会としての 母校創立120周年記念事業について

① 記念祝賀会

2019年度総会後、四日市商工会議所1階ホールにおきまして記念の祝賀会を開催いたします。

食事と飲み物を準備いたします。会費は無料ですので、皆様奮ってご参加ください。思い出話や今後への期待に盛り上がり、また異学年の方々との交流をお楽しみいただく時間となればと思っております。

② 名簿の作成

新しく同窓会名簿を作成いたします。委託業者（株式会社 サラト）を通じて同窓生の皆様に住所確認等の問い合わせをいたしますので、よろしく返信のご協力をお願いいたします。

③ ホームページのリニューアル

デザインを一新、会員の皆様に同窓会活動の様子をお知らせするとともに、学年やグループ同窓会の連絡交流にお使いいただけるようにと刷新いたします。

以上へのご参加ご協力をお願いいたします。

会館だより

会館屋上にCTYの十 四川観測定点カメラが設置されました。

編集後記

会報は同窓会活動の報告とともに同窓生の交流の役目も担います。特に「人物往来」には各年代の同窓生の方々の文章を紹介したいと、毎年寄稿願う方の人選を行います。今年は大先輩四女ご出身の三輪様にご健筆を頂戴し、大変嬉しく存じます。創立120周年のこの年に改めて母校の歴史を鑑み、富中20回生であられた丹羽文雄翁筆、同窓会館「希望の門」を本日もくぐって校了を迎えました。（小林）

学園だより



仲間の大切さ

卒業生代表

加藤大誠

私にとって、四日市高校での高校生活は想像以上に大変でした。授業のスピードが早く、課題も多く、ついていくのがやっとのときもありました。そんな時、私を支えてくれたのは仲間でした。分からない問題があるときは友達と一緒に考えてくれました。また、友達と成績を競い合うことで、刺激を受け、互いに高め合うことができました。恵まれた環境の中で勉強に取り組めたことを嬉しく思います。

私は卓球部に所属していました。入部してまもなく、団体戦の試合に出場しましたが、東海大会出場を決める大事な試合で負けてしまい、とても悔しい思いをしました。敗因を分析し、練習メニューの改善に取り組みました。そして、チームメイトに新たな練習メニューを提案すると、快く練習に付き合ってくれ、時にはアドバイスもしてくれました。そんなチームメイトがいたからこそ私は強くなりました。また、試合でどんなに苦しい場面でも振り返ればいつもチームメイトや顧問の先生方が応援してくれていて、精神的な支えとなり、とても力になりました。同じ目標に向かって切磋琢磨し練習してくれたチームメイトに感謝の気持ちでいっぱいです。チームとして東海大会出場を決めた時の喜びは忘れられません。

私は四日市高校で熱心にご指導して下さる先生方のもと、互いに切磋琢磨し合える仲間と共に充実した3年間を過ごすことができ、本当に良かったです。ありがとうございました。高校生活での経験を活かし、次のステージでもさらに成長できるように頑張ります。

「科学の甲子園」出場に向けて

SSH科学部部長2年 林 智也

私たちは、昨年10月21日、鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスにおいて行われた、平成30年度三重県高等学校科学オリンピック大会にSSH科学部2年生1名、SSH生物部2年生2名、2年生有志3名による合同チームで参加しました。

この大会は、科学的な思考力・判断力・表現力等を育成し、科学的、数学的能力の向上を図ることを目的として、筆記競技と実技競技で競います。筆記競技では、物理・化学・生物・地学・数学・情報の計6分野を90分間で取り組みました。普段の試験とは異なる角度から問われたものもありましたが、試行錯誤する中で、各々が相談しあって解くことができました。

実技競技では、物理・化学・生物・地学の与えられたそれぞれの課題に対して、各チーム3人で実験・観察を行いました。課題を解決する上で、作成能力・コミュニケーション能力等が問われましたが、各自が役割を分担し、協力して取り組むことができました。また、他校の独創的な実験の数々を見て、大変刺激を受けました。

「科学の甲子園」全国大会は埼玉県さいたま市において、3月15日～3月18日の4日間行われ、各地方大会を優勝した47都道府県の高等学校が参加する予定です。



私たちは三重県大会で得た経験や反省をもとに、全国大会まで過去問等を活用しながら対策を練っていきたく思います。三重県代表として良い結果を残せるよう全力を尽くしていきたいと思っておりますので、応援よろしくをお願いします。

本校では平成26年度より文科省からスーパードグローバルハイスクール(SGH)事業の指定を受け、三重県内で唯一のSGH高校として活動を続けてきました。本事業は高等学校等において、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的教養を身につけ、将来国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を図ることを目的としています。本年度は5年間の事業の最終年度を迎え、これまでの経験をもとに以下のような取り組みを進めました。

- ① 京都大学大学院医学研究科形態形成機構学教授の萩原正敏さん(4月)、本校のOBで映画監督の瀬木直貴さん(5月)、NPO法人テラ・ルネッサンス創始者で理事である鬼丸昌也さん(5月)等から全校生徒対象に講演をいただき、また生徒個人がテーマを設定し、課題研究論文を作成するグローバル・マインドの活動に取り組みました。
- ② 更に意識の高い生徒(1年生143名、2年生25名)は、年間8回土曜日に実施した学校設定科目の「グローバル・リーダー学」を履修し、全国の著名な大学教員や企業人、医師など日本や世界で活躍する専門家から指導をうけ、またその中から12月にはカンボジア、中国天津へ海外フィールドワークへそれぞれ12名ずつが参加し、他県のSGH高生徒と合同研修を行うなど、課題研究を深化させました。
- ③ 英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成として、外国人講師による英語講演会(1月)を行い、また様々なテーマに関して英語で討論する白熱英語講座(年間8回)には50名を超える生徒が参加し、英語で論理的思考を行うための学習活動が行われました。

また昨年度より四日市商工会議所のご協力を得て始まった「グローバル企業訪問」は1年生29名が参加して東芝メモリ株式会社四日市工場を訪問し、最先端の企業研究活動の一端に触れ、大きな刺激を受けてきました。さらに夏休み中、ポジティブシンキング育成のため、5日間アメリカ中心の優秀な大学生と英語のみでディスカッション・プレゼン等を行う「エンパワメントプログラム」にも50名もの1年生徒が参加しました。同時期オーストラリア海外語学研修を実施し、定員の約2倍の希望者から選考を経て30名の2年生がゴールドコーストを訪れ、ロビ

ーナ高校やボンド大学を訪問して意見交流を行い、現地語学学校で学びホームステイを経験するなど貴重な体験をしてきました。この研修に対して同窓会より参加生徒への支援をいただき誠にありがとうございました。なお2月には5年間のSGH活動を締めくくる最後のスーパードプレゼンテーションが実施され、地元企業の方などを招いて代表者による成果発表が行われました。SGH事業は本年度終了しますが、本年度より新たに文科省から指定を受けたスーパードサイエンスハイスクール(SSH)事業において、これまでのグローバル教育の精神を受け継いで参ります。



オーストラリア海外語学研修にて

世界への眼差し (SGH事業報告)

教頭 丹羽 徹

同窓生交歓



第18回北海道富中・四高会 2018.7.4 札幌すすきの川基本店



演劇部OB会 2018.6.17 四日市プラトンホテル



第9回関東四高会 2018.12.1 三重テラス2階イベントホール



上海四日市高校OB会 2018.12.10 上海孔乙己酒家



四高38年度卒3年5組クラス会 2018.8.20 近鉄D.ソラナキッチン



四高42年度卒甲子園出場50周年記念同窓会 2018.4.8 大正館



星稜会(四高卓球部OB会)
2018.4.14 四日市みやび



森下杯(四高卓球部OB会卓球大会)
2018.4.15 四日市あさけプラザ



四高49年度卒3年3組クラス会
2018.5.3 四日市みやび



通信制バス旅行 2018.6.3 花フェスタ記念公園



四高51年度卒幹事会 2018.6.30 竹泉亭